

令和8年度 第1回アドバイザリーボード
2026年7月16日(木)



AMEDからの情報発信について

—前回のアドバイザリーボードからの進捗・最新状況報告—

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

研究開発戦略推進部 社会共創推進課

総務部 広報課

本日のアジェンダ

1. 前回のアドバイザリーボードでの情報発信等に関するご指摘



[前回のアドバイザリーボード](#)

2. ご指摘を受けての現在の対応状況

- ① 社会共創・広報機能の強化に向けた体制整備
- ② 現在のAMEDによる発信内容の整理

3. これまでの取組状況と今後の課題

4. 情報発信のPDCAマネジメントの実施

1. 前回のアドバイザリーボードでの情報発信等に関するご指摘

- 情報発信戦略の策定は急いで行うべき。サイエンスコミュニケーションは、「誰に」、「どのように」、「何のために」ということを都度定めることが重要。
- AMEDの機能を推進させるためには国の費用が重要で、世間にも訴えていくべき。
- 機構がさまざまなツールを使った情報発信をしている中で、noteというプラットフォームも使っていると思うが、noteは比較的長文で写真、図表も取り込むことができるので、機構のターゲットとする読者と親和性が高いツールだと思うので、良い取組だと考える。  [AMED Pickup\(note\)](#)
- 各ツールでの発信についても、十分に届いていないものが多いので、ターゲットを絞って的確に発信していくことを急ぐべき。また、何らか取組を実施する際は一発必中のようなマインドではなく、デジタルなども活用しながら、試行錯誤をして取組を進めてほしい。
- 社会共創について、昨年度の夏のアドバイザリーボードを実施してからも役割は増えていると思うが、職員については外から見ていて増えているようには見えない。社会共創に期待する声も多々あり、今の実務についても必要な検討をいただきたい。

2. ご指摘を受けての現在の対応状況

①社会共創・広報機能の強化に向けた体制整備

AMEDは、医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担い、
「医療分野の研究成果を一刻も早く実用化し、患者さんやご家族の元にお届けすること」を目指す

「**社会の真のニーズを満たす医療分野の研究成果を、**
社会との対話や協働を通じて国民の安全・安心を確保し、理解・信頼を得ながら
一刻も早く実用化し、患者さんやご家族の元にお届けすること」を目指す

AMED
「社会共創」

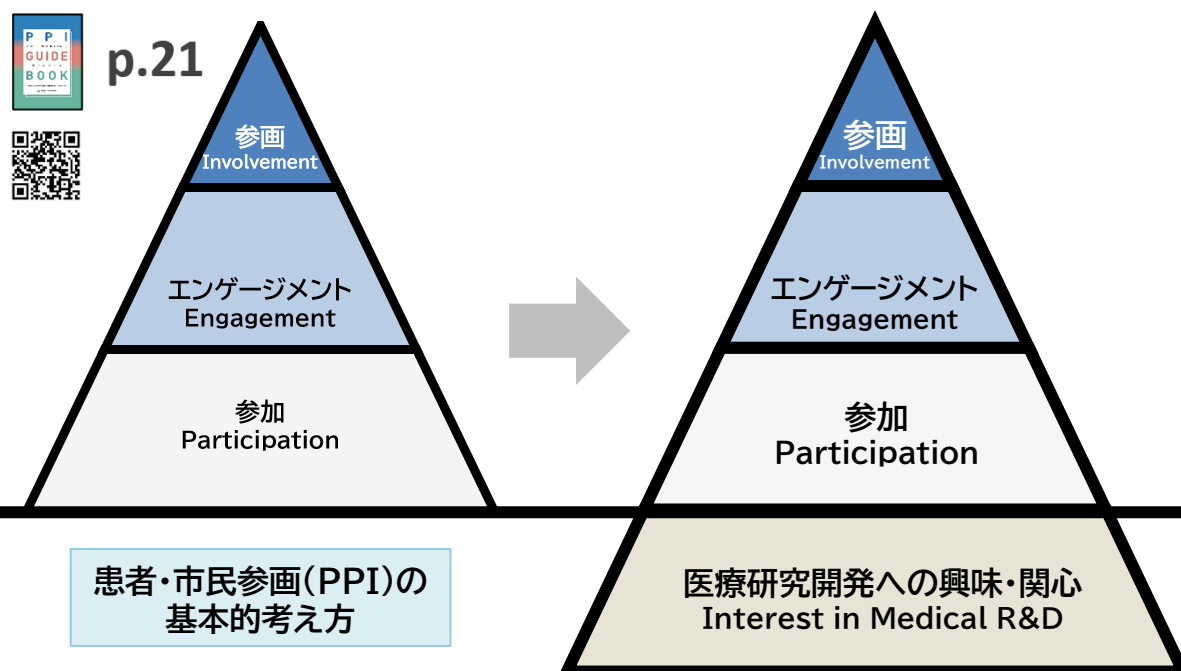
2021年10月～

医療研究開発の
成果を
社会と共に創る

医療研究開発
によって
社会と共に創る



p.21



AMEDにとっての「情報発信」

- ❖ 社会の真のニーズを満たす医療分野の研究成果は、研究者、企業、患者・患者家族、メディア、行政機関等の社会における多様なステークホルダーとの共創(Co-Creation)により創出される
 - ↓
 - ❖ 医療研究開発の社会共創実現のために必要な取組
 - 共創のパートナーとしてのAMEDを社会に広く知ってもらう
 - 情報を共有し、次の医療を共に創るためのパートナーを増やす
 - 成果を一刻も早く、社会に還元する(患者さんやご家族に届ける)
- ➡これらを行うための手段が“**情報発信**”

2. ご指摘を受けての現在の対応状況

①社会共創・広報機能の強化に向けた体制整備

- ❖ 前回のアドバイザリーボードでのご指摘を踏まえ、社会共創推進課と広報課の連携体制を2026年2月以降に構築

❖ 体制強化のための変更点

- 社会共創推進課長が広報課長を兼務することで、医療研究開発の社会共創実現に向けた、一体的な業務マネジメント体制を構築
- 両課において、職員に双方での兼務発令をかけ、業務シェアと業務効率化を開始

- ❖ AMED事業全体を総括する部署である研究開発戦略推進部のナレッジと、法人としてのAMEDの管理部門の中核である総務部のナレッジが合流する地点に、AMEDの情報発信拠点が誕生

Social Co-creation
(社会共創)

Public Relations
(広報)



2025年度 社会共創推進課(4名)

- ・ 課長 1名 ※推進役が兼務
- ・ 課長代理 1名 (専門:医療倫理学・教育学)
- ・ 主幹 1名
- ・ 事務補佐員 1名

2025年度 広報課(5名)

- ・ 課長 1名 ※総務部参事役が兼務
- ・ 主査 2名
- ・ 係員 1名
- ・ 事務補佐員 1名

2026年7月16日現在

研究開発戦略推進部
社会共創推進課

(6名)

総務部 広報課

(7名)

課長 (プロパー職員。専門:医療倫理学・教育学) 1名

主幹 (製薬企業経験者) 1名

主査 1名 ※本務は再生課

主査 1名

主査 1名

係員 1名

事務補佐員 1名

事務補佐員 1名

2. ご指摘を受けての現在の対応状況

②現在のAMEDによる発信内容の整理

現在、AMEDが行っている情報発信内容について、その対象者を以下のカテゴリーで分類して整理した

ターゲット	主な対象
第1 ターゲット	● 公募応募者(研究者、研究機関、企業研究者 等) ● 研究機関専門職(URA、産学連携担当 等) ● (AMEDが成果導出を目指す)企業関係者
第2 ターゲット	● メディア関係者 ● 行政機関、 ● 海外研究機関、海外ファンディング機関 等
第3 ターゲット	● 患者・患者家族 ● 医療・科学技術に関心の高い市民

【参考】AMEDにおけるSNSアカウント

※SNSについてはターゲットの絞り込みをしていない状況

	@AMED officialJP
 YouTube	https://www.youtube.com/@amed
	https://amed.gov.note.jp/

公募応募者、研究機関専門職、企業関係者 等

情報発信を推進する上でのターゲット①

- 公募応募者(研究者、研究機関、企業研究者等)
- 研究機関専門職(URA、産学連携担当 等)
- (AMEDが成果導出を目指す)企業関係者

関係する重点項目の取組

- ① 研究開発成果の社会実装・社会還元への促進に係る情報発信
(公的投資の結果としての研究成果の可視化、社会への着実な成果還元)
- ② ファンディング機能及び公募制度の理解促進
(優れた研究者等のAMED事業への参画促進、多様な研究主体による挑戦への支援)

①に関する代表的取組(1):研究開発に関する各種データベース(DB)・分析調査等資料



<https://amedfind.amed.go.jp/amed/>



<https://www.amed.go.jp/program/list/14/04/cannds-home.html>



<https://www.datacatalog.amed.go.jp/amed/>



<https://www.biobank-network.jp/>



<https://www.binds.jp/>



<https://robotcare.jp/>



<https://www.amed.go.jp/i-analysis/koubo.saitaku.det.a.html>

➡ DB等について、連携・活用によるシナジーを創出できていない

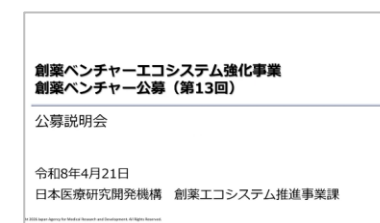
①に関する代表的取組(2):関連イベント出展、成果報告会の開催

主催者	企画例	主な対象	2025年度件数
AMED 広報課	● AMEDシンポジウムの開催 ● BioJapanへの出展	研究者、企業、メディア、一般市民	1件 (BioJapan)
AMED 事業部門 推進部門	● 成果報告会、学会シンポ出展 ● ワークショップ等 ● 市民向けシンポジウム・イベント	研究者、企業 患者・家族、一般市民	61件 (内、海外開催5件) 6件

➡ 研究班の取組を網羅できていない等、AMED全体の取組・成果発信として不十分

②に関する代表的取組(1):公募に関する理解促進のための取組

- 事業の公募実施にあたり、公募趣旨や書類作成の留意点等に関する説明を行う
※事業ごとに実施の要否を判断している状況(2026年度公募説明会:28事業/92事業)
- 開催する場合、オンライン説明会が主流。後日、動画を掲載する事業もあり。
- 説明会は開催せず、Q&A掲載をもって補足説明とする事業もあり。(12/92事業)



➡ AMEDについて未だに十分に知られていないという現実

➡ 研究者にとっては、事業に対する理解促進や応募提案作業は大きなハードル

②に関する代表的取組(2):事務処理説明会

- 毎年2月上旬、研究者及び研究機関の事務担当者向けに、次年度の事務処理に係る説明会を、管理部門・推進部門の複数部署の連携により開催(現地&オンラインのハイブリッド形式)。現地では個別質疑(相談)の場もセット。
- 資料や当日の説明会収録動画も[オンライン公開](#)



➡ 研究機関側の事務処理に慣れ/不慣れがあり、研究者への事務負担増の可能性

メディア関係者、行政機関、海外研究機関・海外FA機関 等

情報発信を推進する上でのターゲット②

- メディア関係者
- 行政機関
- 海外研究機関・海外ファンディング(FA)機関等

関係する重点項目の取組

- ① 研究開発成果の社会実装・社会還元の促進に係る情報発信
(公的投資の結果としての研究成果の可視化、社会への着実な成果還元)
- ④ 国際的プレゼンスの向上及び政策的価値
(国際連携推進に向けた認知度向上、役員等による政策的意義や将来展望に関する発信)

①に関する代表的取組(1):メディアや研究者・企業等に向けたプレスリリース

従来AMEDでは、以下の2パターンでプレスリリースを取り扱ってきた

タイプ名称	概要	2025年度件数
共同プレスリリース	● 研究機関とAMEDの連名によるプレスリリース ● 関連府省の記者会等にも広く配信	14件
成果情報	● 研究機関単独によるプレスリリース(記者会等への配信も研究機関による) ● AMED側は、公式ウェブサイトを通じて発信	342件

※本年7月以降、2パターンを「プレスリリース」として情報一元化

➡ 成果の発信が圧倒的に少ない(成果が出せていないとの負のアピールになっている)

①に関する代表的取組(2):理事長記者説明会

- 毎年5回程度、AMEDにおける最新動向や取組等について、理事長自ら説明を行い、質疑応答を行う機会を創出
(2025年度の主なテーマ)
理事長就任挨拶と第3期概要／製薬協とAMEDの連携・協力
大学発創薬ベンチャースタートアップ・ガイドの策定・公開
- 毎回10～20名の記者が来場。当日資料も事前・事後に公開することで、当時参加できなかった場合にも対応。
(後日の取材依頼にも対応)



➡ 情報発信を手助けしてくれるステークホルダーを十分に巻き込んでいない

④に関する代表的取組(1):海外への発信、国際連携に関する情報発信

- 海外への情報発信は、主にAMED公式ウェブサイトの英語ページや、Xのグローバルアカウント等を通じて展開。また、刊行物については、英語版作成や、動画への英語字幕の付与を実施。
(※事業ごとにバラツキあり)
- AMEDの国際連携については、科学技術外交の観点での取組が主であった。研究者等の国際連携を目的とした取組についても、今後ますます注力していく必要がある。



➡ AMEDの国際的プレゼンスは残念ながら低いと言わざるを得ない

④に関する代表的取組(2):役員等によるSVや講演対応等

AMED第3期運営方針の“現場中心主義”に鑑み、役員・幹部による研究現場等へのサイトビジットや外部講演対応等を積極的に対応中
(※2025年度理事長講演:14件)

※SV:サイトビジット



オンライン討論会への参加



➡ AMEDが何を目標しているのかについて、これまで以上に積極的に発信すべき

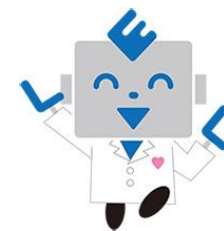
患者および患者家族、一般市民

情報発信を推進する上でのターゲット③

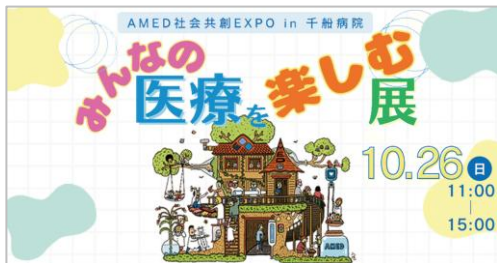
- 患者及び患者家族
- 医療や科学技術に対して、高い関心を寄せる一般市民

関係する重点項目の取組

- ① 研究開発成果の社会実装・社会還元への促進に係る情報発信
(公的投資の結果としての研究成果の可視化、社会への着実な成果還元)
- ③ 患者・市民とのコミュニケーション強化
(医療研究開発への公的投資の意義・成果の共有、社会とのエンゲージメント促進)



①と③に関する代表的取組(1): AMED主催・協力によるイベント



<https://amed-gov.note.jp/n/n24f4a32ec313>

AMED社会共創EXPO in 千船病院
(AMEDの事業成果を市中病院イベントに展示)



<https://amed-gov.note.jp/n/nb5ba13ec9118>

臨床試験に関する市民啓発活動への協力
(日本臨床試験学会市民公開講座)



<https://amed-gov.note.jp/n/n11076e52c46f>

ムーンショット研究開発事業目標7体験イベント
(大阪・関西万博において慢性炎症に関する展示)



AMED各事業においても、一般向け成果報告会を実施

➡ 一般市民向けに積極的に情報発信して、AMEDの理解者を増やすべき

①と③に関する代表的取組(2): SDGs取組紹介動画

今日、一般に広く知られる持続可能な開発目標(SDGs)に対し、顕著な貢献を果たしていると考えられる研究開発課題について、わかりやすくまとめた動画を作成・公開(毎年度1作品)。研究者の研究開発に対する想いにフォーカス。



➡ 研究開発を通じての社会貢献に関する取組事例の紹介も重要

AMEDチャンネル
(YouTube)でも
多数の動画を配信中



次ページにある
AMED広報ウェブ
マガジンも強化中

2. ご指摘を受けての現在の対応状況

②現在のAMEDによる発信内容の整理

ターゲット	主な対象	情報発信の目的、これまでの取組と課題
第1 ターゲット	研究者、研究機関、URA、 産学連携担当 企業研究者 等	優れた研究提案の獲得、公募制度の理解促進、研究成果の社会実装促進
		これまでの取組(代表例): プレスリリース、研究開発環境整備と利用促進、研究開発に関する各種データベース(DB)や分析調査等資料の公開、 関連イベント(成果報告会や学会ブース出展 等)、公募説明会、事務処理説明会など 課題意識: ● AMEDについて未だに、十分に知られていないという現実がある ● 研究者にとっては、事業に対する理解促進や応募提案作業に大きなハードルがあり、Tipsが求められている 他
第2 ターゲット	メディア、行政機関、 海外研究機関、 海外ファンディング機関等	AMEDの政策的価値の理解促進、社会的発信力の向上・プレゼンス向上、国際連携の促進
		これまでの取組(代表例): 理事長記者説明会、海外に対する情報発信の英語化(ウェブサイトや刊行物等)、役員・幹部等による講演・取材対応など 課題意識: ● 情報発信・拡散を手助けしてくれる国内外のステークホルダーを十分に巻き込むことができていない ● AMEDの国際的プレゼンスは残念ながら低いと言わざるを得ない 他
第3 ターゲット	患者・患者家族、 医療・科学技術に関心の 高い市民	医療研究開発への理解・信頼の向上、社会との対話・共創(協働)の促進
		これまでの取組(代表例): 一般向けイベント(成果報告会や社会共創関連イベント)、研究開発に関する動画配信、わかりやすく&配慮して伝える等 科学コミュニケーション関連の研究開発の実施 課題意識: ● 一般市民向けに積極的に情報発信して、AMEDの理解者・応援を増やしていきたい ● 研究開発を通じてどのような社会貢献ができているのかをより多く可視化する 他

職員一人ひとりがAMEDのミッションと価値を理解し、自ら発信できる組織文化を醸成する

3. これまでの取組状況と今後の課題：第1ターゲット向け

主な対象		情報発信の目的、従来の取組と課題					
第1ターゲット 研究者、研究機関、URA、 産学連携担当 企業研究者 等		優れた研究提案の獲得、公募制度の理解促進、研究成果の社会実装促進					
		これまでの取組(代表例): プレスリリース、研究開発環境整備と利用促進、研究開発に関する各種データベース(DB)や分析調査等資料の公開、 関連イベント(成果報告会や学会ブース出展 等)、公募説明会、事務処理説明会など 課題意識: ● AMEDについて未だに、十分に知られていないという現実がある ● 研究者にとっては、事業に対する理解促進や応募提案作業に大きなハードルがあり、Tipsが求められている 他					
工程		12月～3月	4月～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
マネジメント	委託調査・内部WG						
	広報マニュアルの改訂						
	改善効果測定・レビュー						
	次年度計画策定						
コンテンツ・イベント	プレスリリース					スライド8参照	
	理事長記者説明会						
	BioJapan2026						
情報発信媒体	公式ウェブサイトの改善						
	【SNS】note				スライド16参照		
	【SNS】X				スライド17参照		
	AMEDパンフ・成果集						
	YouTube・メルマガ						

3. これまでの取組状況と今後の課題：第2ターゲット向け

主な対象		情報発信の目的、従来の取組と課題					
第2ターゲット メディア、行政機関、 海外研究機関、 海外ファンディング機関等		AMEDの政策的価値の理解促進、社会的発信力の向上・プレゼンス向上、国際連携の促進					
		これまでの取組(代表例): 理事長記者説明会、海外に対する情報発信の英語化(ウェブサイトや刊行物等)、役員・幹部等による講演・取材対応など 課題意識: ● 情報発信・拡散を手助けしてくれる国内外のステークホルダーを十分に巻き込むことができていない ● AMEDの国際的プレゼンスは残念ながら低いと言わざるを得ない 他					
工程		12月～3月	4月～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
マネジメント	委託調査・内部WG						
	広報マニュアルの改訂						
	改善効果測定・レビュー						
	次年度計画策定						
コンテンツ・イベント	プレスリリース					スライド8参照	
	理事長記者説明会						
	BioJapan2026						
情報発信媒体	公式ウェブサイトの改善						
	【SNS】note				スライド16参照		
	【SNS】X				スライド17参照		
	AMEDパンフ・成果集						
	YouTube・メルマガ						

3. これまでの取組状況と今後の課題：第3ターゲット向け

主な対象		情報発信の目的、従来の取組と課題					
第3ターゲット 患者・患者家族、 医療・科学技術に関心の高い 市民		医療研究開発への理解・信頼の向上、社会との対話・共創(協働)の促進					
		これまでの取組(代表例): 一般向けイベント(成果報告会や社会共創関連イベント)、研究開発に関する動画配信、わかりやすく&配慮して伝える等科学コミュニケーション関連の研究開発の実施 課題意識: ● 一般市民向けに積極的に情報発信して、AMEDの理解者・応援を増やしていきたい ● 研究開発を通じてどのような社会貢献ができているのかをより多く可視化する 他					
工程		12月～3月	4月～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
マネジメント	委託調査・内部WG						
	広報マニュアルの改訂						
	改善効果測定・レビュー						
	次年度計画策定						
コンテンツ・イベント	プレスリリース						
	患者・市民向け行事等						
	BioJapan2026						
情報発信媒体	公式ウェブサイトの改善						
	【SNS】note				スライド16参照		
	【SNS】X				スライド17参照		
	AMEDパンフ・成果集						
	YouTube・メルマガ						

4. 情報発信のPDCAマネジメントの実施

情報発信戦略のPDCA

- ① まずは、情報発信について“5W1H(WhereとHowをマージ)”の観点で考える(下記)
- ② これらの観点に従って現状を整理し、何が欠けているか、何が不要かを分析する
- ③ ②の結果も踏まえて、現在のAMEDの情報発信の課題を整理して対応案を5W1Hの観点で具体的に策定する

a. What(コンテンツ)

- ✓ 組織紹介、活動報告、成果、募集案件、トピックス など

b. Whom(対象者)

- ✓ 一般国民、患者・市民、アカデミア、医療従事者、関連企業、政府・省庁関係者、学生、AMED職員 など

c. Why(目的)

- ✓ AMEDプレゼンス向上、公募への応募促進、患者参画促進、産学連携促進、AMED職員モチベーション向上 など

d. When(タイミング、頻度)

- ✓ 年次、四半期、月次、都度 など

e. Where(機会) & How(媒体)

- ✓ 外部向けWebsite、内部向けWebsite、プレスリリース、外部会議体、記者発表会、講演会、個別訪問、AMED内会合 など

f. Who(発信者)

- ✓ 理事長ほかAMED幹部、広報課、担当部門、担当者 ほか



参考資料

- 医療研究開発の社会共創実現に向けた取組 -

患者経験者らとともに構想した「AMEDがこういう場だったらいいね」の絵

イラストレーター：[うのき氏](#)

(2024年度AMED社会共創EXPO-垣根を超える共創のデザイン-より)

AMED広報ウェブマガジン(note)の業務改善

- ❖ 従来広報課では、ウェブマガジンの更新について、広報課所管業務に関する記事以外については、他部署から原稿が出てくれば掲載するという業務方針をとっていた



- ❖ アドバイザリーボードでのご意見を踏まえ、社会共創推進課によるマネジメントの下、広報課での業務方針を以下のとおり変更：

- 原稿を待つだけでなく、広報課から事業部門・推進部門に執筆を依頼したり、取材したりするよう変更
- 配信ペースの目標設定(約10日に1回の配信)
- 情報拡散の方法を検討し、試行する

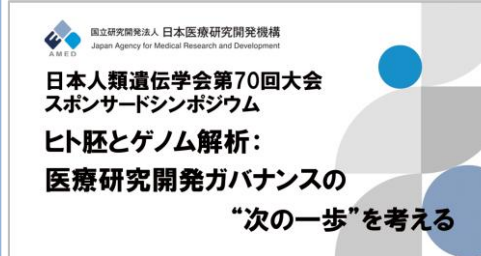


- ❖ 順調に配信中。**2026年度は35本程度公開予定。**(2025年度掲載は11本)
- ❖ 記事拡散の際のタグ付も工夫したり、また執筆者に当該領域のコミュニケーションの専門家を起用したりすることで、効果的な情報発信も実現

AMED Pickup(note): <https://amed-gov.note.jp/>

①現時点で最も高評価のnote記事 (社会共創推進課主催学会イベントの開催報告)

<https://amed-gov.note.jp/n/n927a62750b9b>



② イベントの“見える化”による宣伝効果・波及効果とAMEDの情報発信強化への姿勢を伝える記事

<https://amed-gov.note.jp/n/n7396e7d5a73f>



一般の方にわかりにくい専門用語をどのように書き換えていくか、グループで検討中
司会を務める深野さんと、書記を務める高瀬主幹の素晴らしいコンビネーションで、徐々に書き換えが進みます。

長年、がん研究に携わってきた中産理事長にとって、がんの臨床研究に関するプレスリリースは簡単すぎたかしらと内心思っていたら、途中こんな微笑ましいシーンも：

③AMED職員の考えや、業務への想いを伝えるイベント開催記事

<https://amed-gov.note.jp/n/n1f10b33f4390>



<https://amed-gov.note.jp/n/n79f1bbe9fd4a>



オールAMEDで執筆中です！



Xによる情報発信と拡散に関する業務改善

- ❖ 従来広報課では、公募・採択情報やイベント情報の他、他部署から原稿が出てくれば掲載するという業務方針をとっていた



- ❖ アドバイザリーボードでのご意見を踏まえ、社会共創推進課と連携以降、業務方法を以下のとおり変更：
 - 広報課長権限によるリポスの積極的実施
 - 役職員の講演等外部対応の積極的配信
 - 社会共創的観点での“記念日×AMED”プロジェクト(右図参照)



- ❖ 2025年度の月平均のフォロワー獲得数(約60名)に比べ、現時点で2026年度は現時点で月平均約70名増にアップ
- ❖ view数やリポスト、「いいね」の反応が、軒並み増加傾向
- ❖ 特に疾患に関する記念日とAMEDfindの組み合わせは、患者会がリポストしたり、職員に感想を寄せてくださったりする状況

AMED X 【JP】 https://x.com/AMED_officialJP 【EN】 https://x.com/AMED_officialGL

【例1】AMEDfindと世界IBDデーのコラボ



【例2】国際臨床試験の日と公募情報サイトのコラボ



【例3】AMED研究班が制定した記念日をAMEDも祝い、社会に感謝を伝える（6月6日 Biobankの日）



AMED 日本医療研究開発機構 @AMED_officialJP · 6月5日
明日は**バイオバンクの日**。
健康・医療の未来を支える**バイオバンク関係者**の皆さま、そしてご協力くださるすべての患者・市民の方々に、心からの敬意と「ありがとう」を込めて。

AMEDとして研究者や研究参加者に感謝を伝える機会に

9 20 3,378



海外向けにも配信

AMED社会共創：最近の動向

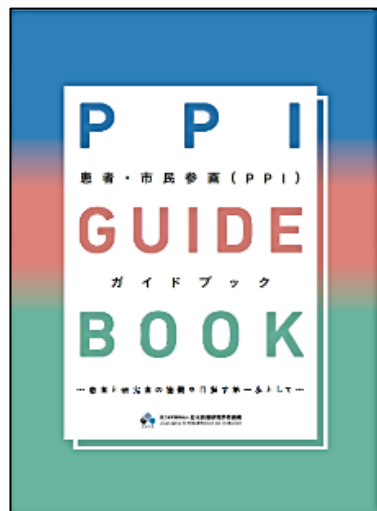
患者・市民参画(PPI)ガイドブック ～患者と研究者の協働を目指す

第一歩として～ 改訂作業の開始

監修:「臨床研究等における患者・市民参画に関する動向調査」委員会

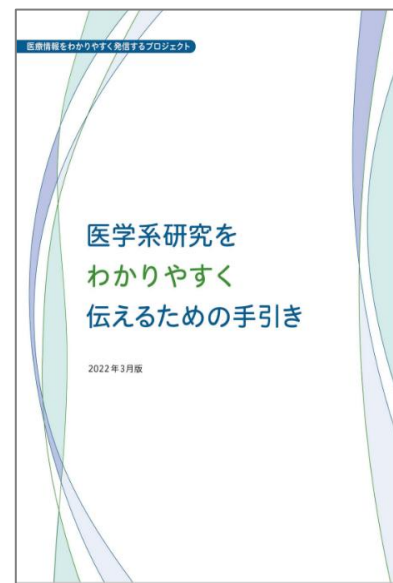
原案:武藤 香織 さん、東島 仁 さん、藤澤 空見子 さん

平成31年3月31日初版完成、同年4月22日公開



- AMED研究倫理・社会共創推進プログラムの研究班にて、ガイドブック改訂に必要な調査研究等を開始
- AMEDにおけるPPIの定義等についても、ガイドブック改訂にともない見直す予定

わかりやすく、配慮して伝えるための研究開発の展開



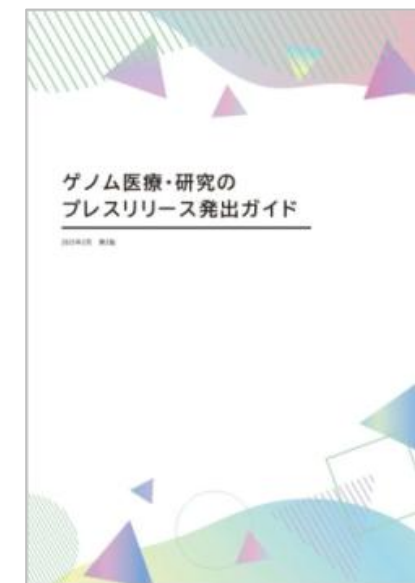
「医学系研究を わかりやすく伝えるための手引き」

制作者

AMED井出班(代表:井出 博生(東京大学))

AMED山田班(代表:山田 恵子(東京都立大学))

- 「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」については、活用のための[ワークショップ](#)をAMED主導で全国で展開中(※AMED職員研修も受講)。
- ゲノム医療・研究のプレスリリース発出に際しての留意点をまとめたガイドも、AMED研究班により作成され、AMEDとしても活用促進に係る啓発活動中。
- いずれもAMED研究倫理・社会共創推進プログラムのなかで改訂作業中。



「ゲノム医療・研究の プレスリリース発出ガイド」

制作者

長神 風二 先生(東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)

荒川 美咲 先生(東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)

AMED研究倫理・社会共創推進プログラム



AMED研究倫理・社会共創推進プログラム

事業管理体制

概要

第3期医療分野研究開発推進計画（令和7年2月18日 健康・医療戦略推進本部決定）においては、「研究開発の適正性の確保と成果の普及」として、①研究開発の公正かつ適正な実施の確保、②研究開発における「社会共創」の取組推進、③情報発信の3つの取組が求められている。このことに鑑み、**本プログラムは、研究開発課題の実施を通じて、最先端の医療研究開発の推進・加速に必要な研究倫理・社会共創について、わが国におけるプラットフォーム機能を果たすことを目標とする。**

領域A：最先端の医療研究開発の推進・加速に必要な挑戦的な取組(令和7～11年度)

A-1: 研究倫理分野

最先端の医療研究開発の推進・加速に向けて必要になる、**研究倫理**に関連する法令・指針や制度等の見直しに資する取組

A-2: 社会共創分野

最先端の医療研究開発に多様な価値を取り入れるよう、研究への患者・市民参画(PPI)やダイバーシティ推進等「**社会共創**」の充実・普及に資する取組

領域B：医療研究開発の推進・加速を支える基盤的取組(令和7～11年度)

B-1: 研究公正推進に必要な取組

研究の公正性の向上に資する
研究倫理教育等の取組

B-2: 倫理審査の質向上に必要な取組

研究倫理に関連する法令・指針等の遵守に資する
倫理審査に関する取組
※事前評価結果を踏まえ、A1で実施

B-3: 科学コミュニケーションの質向上に必要な取組

研究開発の進捗・成果等に係る社会への情報発信
やコミュニケーションの促進に資する取組



第3期計画には、「研究人材力の強化」として、「最先端の健康・医療研究分野での人材育成、異分野・融合研究が推進されるよう、数理科学、情報科学、統計学分野、人文・社会科学の専門家の呼び込みを図る」とあるため、**あらゆる学問領域の専門家による学際的研究体制でもって担うことで研究開発を推進することも本プログラムの目標として掲げる。**

PS



菱山 豊
順天堂大学

PO



田代 志門
東北大学



東島 仁
千葉大学

AMED研究倫理・社会共創推進プログラム（2025.4～2030.3）



	研究開発課題名	研究代表者	所属機関	役職
A-1:研究倫理分野				
1	グローバルな視点からの倫理審査制度の実態把握と課題検討	井上 悠輔	京都大学	教授
2	ヒト胚関連研究の適正な実施に向けた研究倫理支援モデルの構築と体系的制度設計に関する研究開発	神里 彩子	国立成育医療研究センター	部長
3	脳卒中・急性期疾患の緊急医療臨床試験における同意プロセスの課題解決を目指した研究	福田 真弓	国立循環器病研究センター	室長
A-2:社会共創分野				
4	疾患領域を横断した協働に基づく実践的PPIプラットフォームの構築	加藤 和人	大阪大学	教授
5	精神疾患領域の研究における共創プラットフォームの開発研究	山口 創生	国立精神・神経医療研究センター	室長
6	持続可能なPPIの導入と普及に向けた基盤構築に関する研究開発	吉田 雅幸	東京科学大学	教授
B-1:研究公正推進に必要な取組				
7	医療分野の研究開発における産学共創/異分野共創の推進と研究公正に資する利益相反(COI)管理の高度化	飯田香緒里	東京科学大学	機構長／教授
8	公正な臨床研究の基盤となる解決型事例教材と研究計画・解析ネットワークの普及に関する研究開発	森本 剛	兵庫医科大学	教授
B-3:科学コミュニケーションの質向上に必要な取組				
9	「医学系研究をわかりやすく伝える手引き」を用いた科学コミュニケーション手法の研究開発	山田 恵子	埼玉県立大学	准教授

AMEDによる社会共創に関する普及・啓発活動(2025年度)



○外部からの依頼に基づく講演・研修等

日付	会議名	役割	研究者向け	患者・市民向け
2025年4月8日	Japan Medical Affairs Summit	演者	●	
5月16日	日本呼吸器外科学会(倫理講習)	講師	●	
5月30日	令和7年度臨床研究センター長・臨床研究部長研修	講師	●	
6月25日	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 2024年度 メディカルアフェアーズ(MA)エキスパート認定研修講座	講師	●	
7月4日	日本リンパ腫学会 シンポジウム2「臨床研究への患者・市民参画」	演者	●	
7月13日	東京大学大学院・社会倫理学ゼミナール	講師	●	
9月23日	国際連合・科学サミット(UNGA80) Diversity in Healthcare and Science: Advancing Patient and Public Involvement and Engagement (PPIE) to Tackle Global Health Challenges	演者	●	
9月26日	第84回日本癌学会学術総会 SSP*10周年記念シンポジウム (*SSP:サバイバー・科学者 プログラム。がん研究を支援するサバイバー(リサーチ・アドボケート)育成のためのプログラム)	演者	●	●
10月3日	国立がん研究センター東病院 臨床研究セミナー	講師	●	
10月17日	北海道大学病院「アカデミアにおける臨床研究:プロジェクトマネジメントを学ぶ」	講師	●	
10月31日	PPI Japan「第2回つながるイベント」	演者	●	●
11月6日	日本神経治療学会学術集会「産官学で取り組む脳神経疾患のPPI」	演者	●	
11月17日	福島県立医科大学講演会「医療研究開発における責任ある研究・イノベーション(RRI)」	講師	●	
11月28日	国立大学病院臨床研究推進会議(TG1)	講師	●	
12月12日	YORIAI Labシンポジウム	演者	●	●
1月14日	国立大学病院臨床研究推進会議(TG4)	講師	●	
1月24日	治験・臨床研究実務担当者連絡協議会	講師	●	
3月8日	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2026:シンポジウム	演者	●	

AMEDによる社会共創に関する普及・啓発活動(2025年度)



○AMED社会共創EXPO

日付	会議名	役割	開催報告	患者・市民向け
5月24日	AMED社会共創EXPO in AYA研（@第7回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会）	主催	開催報告	●
9月14日	AMED社会共創EXPO提供ワークショップ（@第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025）	主催	—	
10月26日	AMED社会共創EXPO in 千船病院（@千船病院福ハッピーフェスタ）	主催	開催報告	●
2月19日	AMED社会共創EXPO提供セッション（日本臨床試験学会・市民公開講座）	主催	開催報告	●

○医学系研究をわかりやすく伝えるワークショップ

日付	会議名	役割	開催報告・備考
7月26日	AMED医学系研究をわかりやすく伝えるワークショップ（@第57回日本医学教育学会大会）	主催	研究者・研究機関広報向け
9月15日	AMED医学系研究をわかりやすく伝えるワークショップ（@第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025）	主催	研究者・研究機関広報向け
10月21日	AMED医学系研究をわかりやすく伝えるワークショップ（@リサーチ・アドミニストレーション協議会第11回年次大会）	主催	研究者・研究機関広報向け
12月2日	AMED医学系研究をわかりやすく伝えるワークショップ（東京・一般回）	主催	開催報告
2月19日	AMED医学系研究をわかりやすく伝えるワークショップ（神戸・一般回）	主催	研究者・研究機関広報向け

○その他

日付	会議名	役割	開催報告・備考
10月2日	AMED責任ある研究・イノベーション(RRI)ワークショップ in 藤田医科大学	主催	研究者・URA向け
11月25日	AMED患者・市民参画(PPI)“つながる&みつける”ワークショップ in 広島大学病院	主催	研究者・URA向け
12月5日	第46回日本臨床薬理学会学術総会 AMED患者・市民参画“これやってみた&気づいた”シンポジウム	主催	学会参加者限定
12月19日	日本人類遺伝学会:AMED研究倫理・社会共創推進プログラム提供セッション	主催	開催報告
3月6日	RIOネットワークシンポジウム	共催	倫理審査委員向け
3月6日ー7日	第11回研究倫理を語る会 市民公開講座 / 第11回研究倫理を語る会:木を見て森も見る研究倫理	共催	研究者・倫理審査委員・一般向け
3月12日	AMED責任ある研究・イノベーション(RRI)ワークショップ in 広島大学	主催	開催報告
3月14日	Rare Disease Day キャラバン in 山口	共催	患者・市民向け